

**学校法人比治山学園
比治山大学短期大学部
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

比治山大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 比治山学園
理事長名	間所 了
学長名	高橋 超
A L O	佐々木 雅彦
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	広島県広島市東区牛田新町4丁目1-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
総合生活デザイン学科		170
幼児教育科		100
美術科		70
	合計	340

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	幼児教育専攻	10
専攻科	美術専攻	15
専攻科	栄養専攻	8
	合計	33

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

比治山大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は、確立されており、明確に示されている。また、教育目的・教育目標については、建学の精神・教育理念をもとに、全学的レベルと各学科レベルで定められ、時代の変遷に応じて点検・見直しが行われている。さらに、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標については、学生、教職員に周知徹底されており、学内で共通の理解、意思統一を図ろうとする努力は高く評価される。

いずれの学科においても、教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えており、教養教育科目として「比治山ベーシック」が組込まれている。授業内容は短期大学にふさわしいものであり、単位の認定と評価も適切に行われている。免許・資格の取得に向けての教育課程が用意されており、授業形態、選択科目の選択の自由度など教育課程は学生のニーズに応えようよう配慮されている。授業内容、教育方法の改善に向けて常に努力がなされており、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に対する取組みはかなり活発である。

これらの教育に当たる教員の組織や教育環境も整備されている。また、キャンパス内の美化やマナーの向上に対して教職員・学生が一体となって取組み、着実にその成果をあげている。

教員はそれぞれの分野で積極的に研究に取り組んでおり、研究活動のための外部資金の獲得状況もおおむね良好である。社会的活動は活発であり、なかでもボランティア活動に対する取組みは高く評価される。

短期大学と学校法人の管理運営体制は確立されており、学長のリーダーシップが適切に発揮され、教育研究上の審議機関としての教授会も適切に運営されている。

また、財務体質は健全であり、施設設備も適切に管理されている。一方、改革・改善を推進するための努力がなされ、自己点検・評価活動の実施体制も整っている。なお、入学者の約 90%は県民の子女であり、県民の教育に寄与している。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学生や教職員に対する教育目的・教育目標の周知徹底が図られており、特に、定期的開催される各学科の会議などにおいて教員の意思統一を図るとともに、兼任講師連絡会を利用して兼任教員へ周知するなどの努力がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「授業改善を進める」という教育の基本的な考えを常々推し進めようという努力が、「授業改善事例報告」を提出させるだけでなく、冊子としてまとめ教員研修会において役立てるなど、教員間の共有化により、授業改善への意識向上につながっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 古い学舎でありながら、それを感じさせない美しさや学生の気持ちのよい挨拶など、平成14年度から行われているキャンパス美化運動、平成16年度から行われているマナーアップ運動の成果が認められる。
- 入学者の約90%は県民の子女であり、県民の教育に寄与している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教養教育科目のボランティア・ワークⅠで、特定非営利活動法人(NPO)などから外部講師を招き15回の講義を行い、ボランティア・ワークⅡでは、30時間の体験学習を学生自ら計画して実践している。この科目が、学生が積極的に社会活動を行う基盤となり、学校全体における社会的活動の活性化の役割を果たしている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 美術科の収容定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する人間の育成」は、人間愛の教育理念と、常に励む目標として掲げられた「正直・勤勉・清潔・和合・感謝」の五訓のもとに、豊かな人間性の滋養を目指した教育を行おうとして確立されており、明確である。また、教育理念は建学の精神に則って確立されており、明確である。平成10年の男女共学化後においても教育理念は基本的に継承され、豊かな人間性に支えられた人間社会の実現に貢献できる人材の育成（男女共学化前は女性の育成）を目指すものとしている。これら建学の精神・教育理念は、各種の印刷物、ウェブサイトなどを介して学内外に知らされている。また、各種の集会などにおいて、学生・教職員に周知するよう努めており、評価される。一方、建学の精神・教育理念をもとに、各学科ごとに明確な教育目的・目標が定められ、その内容が的確に知らされるよう工夫されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

幼児教育科、総合生活デザイン学科、美術科の3学科を有し、教養教育科目を重視しながらも専門科目にも十分に体系づけられた編成がなされており、時折に改善工夫を重ね、教育充実を図っている。学生に対しても、多様なニーズに応えるべく検討が常に行われており、教育効果も上がっていると見受けられる。シラバスの見直し、学生による授業評価も定期的に行われ、FD、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動にも力を注ぐなど、教育改善への前向きな取組みがうかがえる。また、学生を中心に特に時代による学生気質を考慮した教育内容を組織的に考慮し実行しようとする努力がみられる。その結果、学生の授業内容などの満足度も高まり退学者・休学者減へつながっている。ひいては全体的に定員割れを起こさず、むしろ入学者増へと転じてい

ると考えられ、組織あげでの授業改善努力は高く評価される。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

設置されている3学科と専攻科は、短期大学設置基準を教員数において充分満たしており、教員の学位、教育実績、研究業績、創作物発表など、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有している。年齢構成に多少高齢者に偏っているとはいえ、教育実施にあたる責任体制は確保されている。校地面積なども短期大学設置基準を充分満たしており、授業用の設置設備も整っており、活用されている。図書館、運動場、マルチメディア関連施設なども整備されており、教育の実施体制はおおむね整っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度を高めるため「学生による授業に関するアンケート調査報告書」「教養教育（比治山ベーシック）に関するアンケート調査」などを、全教職員にフィードバックすることにより、授業改善に向けた努力をしている。また、平成15年度から、教員個々の努力した授業改善例をまとめ、授業改善のためのノウハウを共有するために、年2回「授業改善事例報告」を作成し、配布している。専門就職（学習した分野に関連する就職）の割合については、幼児教育科で93.3%、総合生活デザイン学科の栄養士系列は、41.2%であり、充分であると判断できる。教育の実績や効果を確認するため、平成18年度に、平成14、15、16年度卒業生1,084人を対象にして「既卒者対象アンケート調査」を実施している。

評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像などが明示されており、募集要項には入学者選抜の方針や多様な選抜方法が分かりやすく記載されている。入学手続き者に対して、入学前に新入生がスムーズに大学生活をスタートできるよう、「スタートアップ・ガイド」を作成し、周知しており、入学後は、オリエンテーションに加え、5月中頃に新入生合宿オリエンテーションも実施されている。学習支援は学習サポートセンターを設置し、学生のニーズに対応した個別指導を行っている。学生生活を支援するために各種委員会を設け、教職員が連携して相談、指導などあらゆる面でサポートしている。進路支援は、キャリア支援室を設け、就職のための資格取得、就職試験対策などを行っており、就職状況は良好である。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動などの実績は「比治山大学短期大学部自己点検・評価報告書」に「教員研究業績」として毎年度収録されている。過去3ヶ年の科学研究費補助金への申請も行われ、一部採択もあり、私立大学教育研究高度化推進特別補助については、過去3

ヶ年の申請件数が 22 件、うち採択されたものが 21 件であった。個人研究費も適切に配分されている。教員の研究を発表する機会は、「比治山大学短期大学部紀要」など、充分確保されている。研究に係る機器、備品、図書などは充分である。また、研修、研究を行う時間についても十分な配慮がなされている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

教員の社会的活動は、目的を逸脱しない限り積極的に推奨している。また、社会人を受け入れるために、社会人特別選抜試験の制度を設け、毎年社会人を受け入れている。社会的活動は、学内では経験できない貴重な体験であり、学生の社会性・人間性の涵養やコミュニケーションスキルの向上につながる重要な活動であると考え、顕著な功績があったものには表彰を行っている。また、ボランティア活動については、授業科目として講義と体験学習を採り入れ、広く社会にいかせる実践力を持った人材の育成を図っている。国際交流・協力については海外教育機関などとの交流協定を締結しておらず、交換留学などの実績はない。毎年 4～5 人の教員が海外へ調査研究に行き、学会参加や作品の出展などを行っている。また、専任教員は、学校法人比治山学園教育職員海外研修規程により、海外における調査研究、学術交流などを行うことができ、これらの活動を支援している。

評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為第 15 条の定めにより、理事会が学園業務の意思決定機関であり、それに基づき、業務は理事長が執行する体制となっており、理事長のリーダーシップが適切に発揮されている。教学に関することで理事会に諮る必要のある事項以外は、学長が教授会などに諮りながら執行する取扱にしている。また、定期的に「経営会議」を開催するなどして、理事長と教学との意見疎通が図られる体制となっている。学園の業務運営の円滑な推進と経営基盤の強化を図るために設置された「経営会議」は、理事長、学長をはじめ学園の中核を担う役職教職員から構成され、十分に機能していることがうかがわれる。監事や評議員は、寄附行為の定めに基づき適切に業務を遂行している。

評価領域Ⅸ 財務

毎年度の事業計画と予算は、理事長、理事会、学長および事務局など一連の手順を踏んで審議、承認されており、適切である。また、私立学校法の規定に基づき、財産目録、貸借対照表、収支計算書（大科目）、監事報告書および事業報告の主要項目をウェブサイトに掲載し、公開の充実を図っている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

これまでに相互評価や認証評価機関の評価を経験していないが、自己点検・評価報

告書の定期的刊行など自己点検・評価活動に対する取組みは以前からなされており、評価に関する指揮・管理、学生による授業評価、教職員の研修会など改革・改善のための検討が行われてきた。さらに、自己点検・評価の実施や報告書原案の作成にあたっては、学長を本部長とする運営戦略本部の下部組織である評価委員会のもとに置かれた、短大部会で行われている。このように、改革・改善を推進するために全学的に取組もうとする努力は十分にみられる。